

証券アナリスト講義録				科目	経済	コース	1次対策 科目別ゼミナ	回数	/
------------	--	--	--	----	----	-----	----------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり [
-----	-------------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	1次 経済 各分野の内容 ◦ <u>ミクロ</u>経済学 (◦個人、企業 ◦市場) ◦ <u>マクロ</u>経済学 一国 (GDP) ◦ 金融論 ◦ 国際金融論

2012 年度春試験向け科目別集中セミナー

1 次経済

TAC証券アナリスト講座

経済担当：小川

はじめに — 1次経済本試験の概要

- 試験時間は 90 分、90 点満点。
- 問題数は概ね 55 問程度。すべて選択問題（4 択または 5 択）
- 大問は 4 つ。配点ウェイトは以下の通り。

【大問別の配点ウェイト】 新プログラム試験以降

	19 年春	19 年秋	20 年春	20 年秋	21 年春	21 年秋	22 年春	22 年秋
第1問 ミクロ経済学	19%	20%	24%	26%	27%	27%	27%	27%
第2問 マクロ経済学	43%	44%	40%	38%	39%	39%	39%	39%
第3問 金融論	20%	16%	16%	16%	13%	14%	14%	14%
第4問 国際金融論	18%	20%	20%	21%	21%	20%	20%	20%

（注）平成 23 年春試験の問題は未公開。

- 第1問（ミクロ経済学）は、平成 19 年春から始まった新プログラム試験で初めて導入されました。配点ウェイトはしばらく上昇しましたが、ここ最近は安定しています。
- 最も配点が高いのは第2問（マクロ経済学）であり、毎回約 4 割を占めています。
- ミクロとマクロを合わせ、「経済学」と考えると、全体の 6 割強になる。合格のためには第2問である程度の得点を固めておく必要があります。
- 第3問（金融論）は、配点は高くありませんが、個別の知識を覚えておけば対応できる問題が多いのが特徴です。
- 第4問（国際金融論）では、国際収支や為替レートに関する仕組みや計算問題が多く出題されています。

各分野の概要

① ミクロ経済学

- 個人や企業の経済活動についての意思決定（＝選択）や、財やサービスが取引される市場の役割とそのメカニズムについて学習します。
- キーワードとしては、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者行動、企業の生産活動、不完全競争市場（独占、寡占）、余剰分析、市場の失敗、等が挙げられます。
- さらに、異時点間の効用を最大化する個人による「将来の消費＝貯蓄」の決定（異時点間消費理論）、将来の結果が不確実な状況での選択（不確実性下の選択）が取り上げられます。
- 他の経済主体の行動を勘案して意思決定が行われるケース（ゲーム理論）や、情報が十分に行き渡っていない場合の意思決定（情報の経済学）も試験範囲に含まれます。

② マクロ経済学

- マクロ経済学とは、一国経済を巨視的な（マクロな）観点から眺めて、その仕組みを分析する分野であり、一国全体の経済、金融が分析の対象になります。
- 国民所得統計（GDP）、IS-LM分析、AD-AS分析（総需要・総供給分析）、フィリップス曲線、経済成長理論、等が取り上げられます。
- マクロ経済学は、本試験における配点ウェイトが最も高く（約4割）、続く2分野（金融論、国際金融論）の基礎にもなるため、幅広く学習しておく必要があります。

③ 金融論

- 金融論では、金融取引の機能・仕組みや金融システムなどが取り上げられます。
- 日本の金融市場（短期金融市場、長期金融市場）に関する知識も求められます。
- 日本銀行が行う金融政策も出題範囲になっています。金融政策の運営方法やマネーサプライ、貨幣乗数、準備預金制度、等が取り上げられます。
- 政府も金融活動を行っています。日本における国債発行・流通の仕組み、財政赤字の問題点なども試験範囲です。

④ 国際金融論

- 国際金融論では、国際収支や外国為替レートの見方、理論的な決定要因の学習が出題の中心になります。
- 実質為替レート、金利平価説、購買力平価説、等の考え方と、それらを応用した理論モデルが紹介されます。
- 国際金融論では計算問題のウェイトが高いため、なるべく多くの問題にあたって計算のパターンに慣れておく必要があります。